

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-79784

(P2008-79784A)

(43) 公開日 平成20年4月10日(2008.4.10)

(51) Int.Cl.		F I		テーマコード (参考)
A 4 7 B 17/00	(2006.01)	A 4 7 B 17/00	A	3 B 0 5 3
A 4 7 B 13/00	(2006.01)	A 4 7 B 13/00	Z	3 J 0 2 4
F 1 6 B 12/30	(2006.01)	F 1 6 B 12/30		
F 1 6 B 12/02	(2006.01)	F 1 6 B 12/02	Z	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願2006-262436 (P2006-262436)	(71) 出願人	000139780
(22) 出願日	平成18年9月27日 (2006. 9. 27)		株式会社イトーキ
			大阪府大阪市城東区今福東1丁目4番12号
		(74) 代理人	100079131
			弁理士 石井 暁夫
		(74) 代理人	100096747
			弁理士 東野 正
		(74) 代理人	100099966
			弁理士 西 博幸
		(74) 代理人	100134751
			弁理士 渡辺 隆一
		(72) 発明者	湯川 賢訓
			大阪市城東区今福東1丁目4番12号 株式会社イトーキ内

最終頁に続く

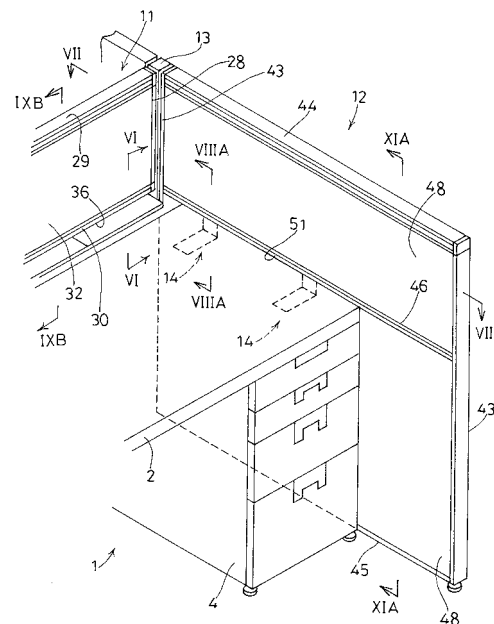
(54) 【発明の名称】 サイドパネル付き机

(57) 【要約】

【課題】床に自立するサイドパネルを備えて机において、サイドパネルの取り付けの容易性を向上させると共に、背面パネルを併用するに際しての見栄えの向上も図る。

【手段】天板2の後方には背面パネル11が立ち上がり、背面パネル11の下端部には左右長手の長溝40が前向きに開口している。サイドパネル12は中間フレーム46を介して上下に区分されており、中間フレーム46は横向きに開口した長溝51を有している。背面パネル11の長溝40と中間フレーム46の長溝51とは同じ高さで連続するように延びているため見栄えが良い。サイドパネル12は中間フレーム46の長溝51に嵌め入れた連結金具14を介して天板2に連結されている。連結金具14は中間フレーム46に着脱自在であるため、サイドパネル12の取り付けも簡単である。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

平面視で交叉した背面と側面とを有する天板と、前記天板を支える支持体と、前記天板の側面部に配置されていて天板の上下両方向に広がるサイドパネルとを備えており、

前記サイドパネルには、天板の側に開口した前後長手の長溝が、天板の上方に露出した状態で形成されており、更に、前記サイドパネルは、天板の下面にねじで締結した金具を介して天板に連結されている、

という机であって、

前記金具は、天板の下面に重なる下水平部と天板の側面に重なる垂直部とを有して正面視略 L 形に形成されていると共に、前記垂直部の上端縁に、前記サイドパネルの長溝に抜き差し自在な係止爪を形成している一方、前記サイドパネルの長溝は、前記金具の係止爪を天板の側に向けて抜け不能に保持する蟻溝に形成されている、
サイドパネル付き机。

10

【請求項 2】

前記天板の後方には、当該天板と略同じ高さのバックフレームが配置されており、このバックフレームに背面パネルが積み重ねた状態に立設されており、更に、前記背面パネルの下端には、前向き開口で左右長手の長溝が天板の上方に露出するように形成されており、前記背面パネルの長溝とサイドパネルの長溝とが略同じ高さになっている、
請求項 1 に記載したサイドパネル付き机。

【請求項 3】

20

前記背面パネルとサイドパネルとは、平面視矩形のコーナー支柱を介して連結されており、更に前記サイドパネルは、床に接地するように設定されていると共に、天板の手前側にはみ出ており、サイドパネルの後端部でコーナー支柱が支持されており、前記背面パネルとバックフレームとはコーナー支柱に連結されている、
請求項 2 に記載したサイドパネル付き机。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本願発明は、背面パネル（フロントパネル又はバックパネルと呼んでも良い）とサイドパネルとを備えた机（テーブル）に関するものである。

30

【背景技術】

【0002】

脚等の支持体で天板を支持して成る机にオプションとして背面パネルとサイドパネルとを設けることは従来から広く行われている。背面パネル及びサイドパネルとも取り付け構造は様々である。その一例として特許文献 1 には、背面パネルは床から浮かした状態で脚に取り付ける一方、サイドパネルは床に接地させた状態で脚に取り付けることが記載されている。

【0003】

背面パネル及びサイドパネルは主として仕切り（目隠し）の機能を司るものであり、サイドパネルは通常は机上に立設することが多いが、例えば機の側方が通路となっている場合は、サイドパネルが机上にのみ立設されていると遮蔽機能が不十分であり、また、人の足や物が脚に当たることを防止する保護機能も要請される。そこで、天板の上下両側に広がる状態でサイドパネルを配置することがあり、その例が特許文献 1 に記載されている。

40

【特許文献 1】特開 2000-333738 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献 1 では、サイドパネルの取り付け手段としては、脚の上下中途高さ部位に板状のブラケットを溶接によって固定し、この板状ブラケットとサイドパネルとをねじで締結している。しかし、この取り付け手段では、板状ブラケットは脚に固定されたままになっ

50

ているため、脚はサイドパネルを取り付けるための専用品として製造せねばならず、サイドパネルを取り付けない机に適用することはできない。このため脚の用途が限定されて不経済である点や、板状ブラケットのねじ挿入穴とサイドパネルの雌ねじ穴との位置合わせも面倒であるという問題がある。本願発明は、この問題を解決することを一つの課題とするものである。

【0005】

ところで、机にはサイドパネルのみを設ける場合もあるが（例えば特許第2626426号公報参照）、一般には、サイドパネルを設ける場合は背面パネルも設けることが殆どである（机の使用者は天板の背面方向を向いているため、机の使用者に対する目隠し機能の点からは背面パネルの必要性のほうが高い。）。 10

【0006】

背面パネルの構造や取り付け態様も様々であり、例えば、天板の後端縁に立設する場合（すなわち背面パネルが平面視で天板の後端縁に重なっている場合）や、天板の後方に配置したバックフレームに立設する場合、或いは、背面パネルを天板の上下に広がる状態に形成して、これを脚の背面に重ねて取り付けする場合などがある（この場合は背面パネルが幕板の機能も発揮している。）。 20

【0007】

このうち、天板の後方に配置したバックフレームに立設する積み上げ方式は、背面パネルを備えていない机と備えている机との切り換えや、背面パネルの高さの変更に簡単に対応でき、また、天板の後端面と背面パネル（及びバックフレーム）との間に配線空間を設けることも簡単にできる利点がある。そして、このような積み上げ方式の背面パネルでは、その下端にデザイン等の面から天板の方向に開口した横長の長溝を形成することがある。 20

【0008】

本願発明は、背面パネルとサイドパネルとが共に長溝を備えている場合に、背面パネルとサイドパネルとを調和させて全体としてスッキリとしたデザインを実現することも課題の一つとしている。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本願発明に係る机は、「平面視で交叉した背面と側面とを有する天板と、前記天板を支える支持体と、前記天板の側面部に配置されていて天板の上下両方向に広がるサイドパネルとを備えており、前記サイドパネルには、天板の側に開口した前後長手の長溝が、天板の上方に露出した状態で形成されており、更に、前記サイドパネルは、天板の下面にねじで締結した金具を介して天板に連結されている、」という基本構成になっている。 30

【0010】

そして、請求項1の発明では、前記金具は、天板の下面に重なる下水平部と天板の側面に重なる垂直部とを有して正面視略L形に形成されていると共に、前記垂直部の上端縁に、前記サイドパネルの長溝に抜き差し自在な係止爪を形成している一方、前記サイドパネルの長溝は、前記金具の係止爪を天板の側に向けて抜け不能に保持する蟻溝に形成されている。 40

【0011】

請求項2の発明では、請求項1において、前記天板の後方には、当該天板と略同じ高さのバックフレーム（背面部材）が配置されており、このバックフレームに背面パネルが積み重ねた状態に立設されており、更に、前記背面パネルの下端には、前向き開口で左右長手の長溝が天板の上方に露出するように形成されており、前記背面パネルの長溝とサイドパネルの長溝とが略同じ高さになっている。

【0012】

請求項3の発明は、請求項2において、前記背面パネルとサイドパネルとは、平面視矩形のコーナー支柱を介して連結されており、更に前記サイドパネルは、床に接地するように設定されていると共に、天板の手前側にはみ出ており、サイドパネルの後端部でコーナ 50

一支柱が支持されており、前記背面パネルとバックフレームとはコーナー支柱に連結されている。

【発明の効果】

【0013】

本願発明では、サイドパネルを連結する金具は天板の下面にねじで締結されているため、サイドパネルを取り付けない状態では金具を取り外せば足り、従って、サイドパネルを取り付ける仕様の机と取り付けない仕様の机とに簡単に対応できて経済的である。また、金具がサイドパネルの長溝に着脱自在であることと、金具がサイドパネルの長溝に沿ってスライド自在であって位置決めが容易であること、金具が机上に露出していてその位置を一目で把握できることが相まって、サイドパネルの取り付け作業も簡単に行うことができる。また、サイドパネルの長溝はトレーや棚等の付属品の取り付けに利用することも可能である。

10

【0014】

請求項2のように構成すると、背面パネルの長溝とサイドパネルの長溝とが水平状に連続したラインとして表れるため、デザインの的にスッキリとしていて見栄えが良い。更に請求項3のように構成すると、背面パネル及びサイドパネルはコーナー支柱に連結されるため連結に際して位置決めが容易であり、また、サイドパネルは床上に自立しているため安定性に優れている。

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

20

次に、本願発明の実施形態を図面に基づいて説明する。図1～図11では第1実施形態（主たる実施形態）を示しており、まず、第1実施形態を説明する。

【0016】

(1). 概要

図1は多数の机1から成る机群の斜視図、図2は単体の機の部分的な斜視図、図3は机群を裏側から見た状態での斜視図である。これらの図から理解できるように、机1は、平面視で矩形（横長長方形）の天板2を備えており、天板2は、左右に配置した脚3又は抽斗式袖キャビネット4で支持されている（脚3と袖キャビネット4は天板2の支持体の一例である。）。また、脚3又は袖キャビネット4の背面には、机1の剛性を確保する強度メンバーとしてのバックフレーム5が連結されている。

30

【0017】

机群は、隣り合った机1が互いに連結した状態で並設される多連構造になっており、隣り合った天板2は一つの脚3又は袖キャビネット4に跨がった状態で載っており、かつ、天板2は図示しない金具によって脚3又は袖キャビネット4に固定されている。

【0018】

バックフレーム5は、縦長の左右サイドメンバー6と、その上端に連結した左右横長のアップフレーム7と、アップフレーム7よりも下方の部位において左右のサイドメンバー6に連結したパネル体8とを備えている。バックフレーム5は天板2と同じ左右長さに設定されており、隣り合った2つのバックフレーム5は、一つの脚3又は袖キャビネット4に連結されている。天板2を一つの脚3又は袖キャビネット4に連結している状態では、天板2の側縁は脚3又は袖キャビネット4の外側から若干の寸法だけはみ出している。

40

【0019】

机1は前後背中合わせに連結することも可能であり、この場合は、前後の机1は一つのバックフレーム5を共用している。既述のように、隣り合った机1は脚3又は袖キャビネット4及びバックフレーム5を兼用しており、従って、任意の数だけ連結することができる。なお、脚3は、中空板状の基部から上アームと下アームとを前向きに突設したいわゆるL脚の形態になっているが、例えば棒状の脚や側面視矩形の板状の脚等も採用できることは言うまでもない。

【0020】

50

天板 2 とバックフレーム 5 との間には配線用空間 9 が空いており、この配線用空間 9 には、着脱自在なカバー 10 が配置されている。バックフレーム 5 は天板 2 と略同じ高さに揃えられており、このバックフレーム 5 の上面に背面パネル 11 を立設している。また、机群の端部を構成する机 1 の外側部には、床に自立した状態でサイドパネル（腰パネルと呼んでも良い）12 が配置されている。サイドパネル 12 の前後寸法は天板 2 の奥行き寸法よりもかなり大きい寸法になっており、このためサイドパネル 12 は天板 2 の手前側に張り出している。

【0021】

サイドパネル 12 と背面パネル 11 とは平面視矩形（正方形）のコーナー支柱 13 に連結されている。また、サイドパネル 12 は図 2 に示す連結金具 14 によって天板 2 に連結されている。図 1 に符号 15 で示すのは、移動自在で間口寸法が小さいスリムタイプの補助袖キャビネットである。

10

【0022】

本願の請求項及び明細書で「左右」「前後」の文言を使用しているが、この前後・左右は人が背面パネル 11 と対峙した方向を基準にしている（換言すると、人が椅子に腰掛けて机を使用する状態での当該人を基準にして前後・左右の文言を使用している。）。前後の文言については、背面パネル 11 に向かって手前側を前と呼び、前方を後と呼んでいる。天板 2 が平面視 L 形である場合は、2 枚の背面パネルが平面視で直交した姿勢に配置されることになるが、この場合は、それぞれの背面パネルを基準にして前後・左右が規定される。

20

【0023】

次に、図 4～図 7 も参照してバックフレーム 5 と背面パネル 11 との詳細を説明する。図 4 はバックフレーム 5 の分離斜視図、図 5 は背面パネル 11 の上部の分離斜視図、図 6 は図 2 の VI-VI 視断面図、図 7 は図 2 の VII-VII 視断面図である。

【0024】

(2). バックフレームの詳細

既述のとおり、バックフレーム 5 は、左右のサイドメンバー 6 とその上端に連結したアップフレーム 7 と、左右サイドメンバー 6 をアップフレーム 7 の下方において連結するパネル体 8 とを主要要素としている。サイドメンバー 6 はアルミ等の金属で中空に形成されており、平面視で略中間部には縦筒部 16 が形成されており、また、一側面にはパネル体 8 が嵌まる縦長凹所 17 が形成されている。

30

【0025】

サイドメンバー 6 の上端には樹脂製のキャップ 18 が装着されており、キャップ 18 にはサイドメンバー 6 の縦筒部 16 と同心の貫通穴 19 が空いている。また、サイドメンバー 6 のうち縦長凹所 17 と反対側の外面には、前後の内向きリップを有するセンター蟻溝 6a が全長にわたって形成されている。

【0026】

アップフレーム 7 も金属製で中空状に形成されており、その前後両面に 3 段の蟻溝 20 が形成されており、また、下面にはパネル体 8 が嵌合し得る下向き開口溝 21 が空いている。アップフレーム 7 とサイドメンバー 6 は L 形の金具 22 を介してビス（図示せず）で連結されている。また、パネル体 8 の四周は中空状に折り返されており、左右の折り曲げ返し部がビス 23 でサイドメンバー 6 に締結されている。また、パネル体 8 には横長の補強材 24 を固着している。

40

【0027】

なお、バックフレーム 5 の高さは任意に設定できる。机 1 を背中合わせに配置する場合は目隠し機能は殆ど必要はないので、バックフレーム 5 と床との間に大きな空間が空いても良い（パネル体 8 は上下高さを変えてサイドメンバー 6 に固定することもできる。）。

【0028】

図 4 に示す符号 25 は、サイドメンバー 6 を脚 3 又は袖キャビネット 4 に連結するため

50

のダルマ形係合穴であり、脚 3 及び袖キャビネット 4 の背面には、係合穴 2 5 が嵌め込まれる頭付きピン（図示せず）を突設している。従って、バックフレーム 5 は脚 3 及び袖キャビネット 4 に対して着脱自在である。なお、バックフレーム 5 の連結手段は任意に設定できる。バックフレーム 5 の構造は本実施形態に限定されるものではなく、例えば全体を板材でパネル状（幕板状）に構成したり、或いは、左右のサイドメンバーの下端をロアフレームで連結するなど、様々の態様を採用できる。木製とすることも可能である。

【0029】

図 6 に示すように、配線空間 9 を塞ぐカバー 1 0 は、バックフレーム 5 を構成するアップフレーム 7 の蟻溝 2 0 に嵌め込み装着されている。カバー 1 0 の上面は、バックフレーム 5 のアップフレーム 7 及び天板 2 と略同じ高さに設定されている。本実施形態ではカバー 1 0 と天板 2 との間に若干の隙間（ケーブル類を引き出すための隙間）を空けているが、配線空間 9 をカバー 1 0 で完全に塞ぐことも可能である。図 6 に符号 2 6 で示すのは配線ダクトを吊支するためのブラケットであるが、本願との関係はないので説明は省略する。

【0030】

(3). 背面パネル

背面パネル 1 1 は、左右に配置された上下長手の縦フレーム 2 8 と、左右縦フレーム 2 8 の上端間に連結された笠木 2 9 と、左右縦フレーム 2 8 の下端間に連結された巾木 3 0 とによって正面視矩形の枠組みが構成されており、この枠組みに、芯材 3 1 と前後の表面板 3 2 とが取り付けられている。表面板 3 2 は木製であるが、金属板製としたり、ピンを刺すことのできる軟質板とすることもできる。

【0031】

例えば図 7 に示すように、縦フレーム 2 8 は、軽金属の押し出し加工品であって中空であり、かつ、外側に露出した突出部 2 8 a を有する平面視略 T 字状に形成されており、表面板 3 2 は突出部 2 8 a を除いた部分に重なっている。縦フレーム 2 8 における突出部 2 8 a の前後側壁には、ブラケット類を引っ掛けることができる係止穴 3 4 が上下適宜間隔で多数形成されており、また、突出部 2 8 a の外端面には縦長中心線に沿ってセンター蟻溝 3 5 が形成されている。

【0032】

笠木 2 9 は金属製又は樹脂製で中空に形成されており、かつ、前後に開口した蟻溝式の長溝 3 6 が全長にわたって形成されている。長溝 3 6 には例えば柵（図示せず）を係止することができる。図 5 に示すように、笠木 2 9 は縦フレーム 2 8 にビス（例えばタッピンねじ）3 7 で締結されている。また、笠木 2 9 にはビス 3 7 をねじ込むための切欠き 3 8 が形成されており、切欠き 3 8 はキャップ 3 9 で塞がれている。

【0033】

図 6 に示すように、巾木 3 0 は中空状でかつ上部には前後に露出したエッジ部 3 0 a を備えており、エッジ部 3 0 a の下方に空間が空いている。このため、バックフレーム 5 の上面と巾木 3 0 のエッジ部 3 0 a との間に横長の長溝 4 0 が空いている（以下では、長溝 4 0 は、便宜上、「背面パネル 1 1 の長溝 4 0」と呼ぶ。請求項に記載した長溝はこのような態様も含んでいる。）。

【0034】

巾木 3 0 も笠木 2 9 と同様に 2 本のビスで縦フレーム 2 8 に締結されている。そして、図 4 及び図 5 に示すように、上下に長いボルト 4 1 を笠木 2 9 と縦フレーム 2 8 と巾木 3 0 とに上方から通して、ボルト 4 1 をバックフレーム 5 におけるサイドメンバー 6 の縦筒部 1 6 にねじ込んでいる。このため、背面パネル 1 1 はバックフレーム 5 に離脱不能で強固に固定されている。

【0035】

(4). サイドパネルの詳細

次に、従前の図（特に図 7）に加えて図 8～11 も参照し、サイドパネル 1 2 の構造と連結構造とを説明する。図 8 のうち（A）は図 2 の VIIIA-VIIIA 視断面図、（B）は（A

10

20

30

40

50

）のB-B視断面図、（C）は連結金具14の取り付け手順を示す図、図9のうち（A）は図2のIXA-IXA視断面図で（B）は図2のIXB-IXB視断面図であり、両者を繋ぐ点線は高さが揃っていることを表示している。図10のうち（A）はサイドパネル12の端部の部分的な分離平面図、（B）は（A）のB-B視図、（C）は（A）のC-C視図であり、図11はサイドパネル12とコーナー支柱13との下部連結手段を示す斜視図である。

【0036】

サイドパネル12は、左右の縦フレーム43と、左右の縦フレーム43の上端に連結した笠木44と、左右の縦フレーム43の下端に連結した巾木45と、左右縦フレーム42を天板2の高さ位置において連結する中間フレーム46とで骨組みが構成されており、中間フレーム46の上方と下方とに、それぞれ芯材47と前後の表面板48とが配置されている。サイドパネル12の前後両端部の下面にはアジャスタボルト49を取り付けている。

10

【0037】

サイドパネル12の縦フレーム43、笠木44、巾木45は背面パネル11のそれと同じ断面形状であり、また、縦フレーム43と笠木44との連結構造及び縦フレーム43と巾木45との連結構造も背面パネル11と同じである。よって、これらについての説明は省略する。

【0038】

コーナー支柱13は4つの縦長外面を有する平面視略正方形に形成されており、各縦長外面には、背面パネル11の縦フレーム25と同様にセンター蟻溝13aが形成されており、コーナー支柱13のセンター蟻溝13aと背面パネル11における縦フレーム28のセンター蟻溝35との相互間、及び、コーナー支柱13のセンター蟻溝13aとサイドパネル12における縦フレーム43のセンター蟻溝43aとの相互間に、断面略H字状で上下に長いジョイント材50が差し込まれており、これにより、コーナー支柱13と背面パネル11、及び、コーナー支柱13とサイドパネル12とは横向き離反不能に保持されている。換言すると、背面パネル11とサイドパネル12とはコーナー支柱13を介して離反不能に連結されている。

20

【0039】

図8及び図9に示すように、中間フレーム46は中空状でかつ表裏両側には外側に露出した上エッジ部46aと下エッジ部46bとを備えており、上下エッジ部46a、46bの間に前後長手で水平状に延びる長溝51が開口している。上エッジ部46aは下向きのリップ46cを備えており、このため、長溝51は蟻溝になっている。そして、サイドパネル12は、下エッジ部46bの上面が天板2の上面と略同じ高さになるように設定しており、このため、サイドパネル12の長溝51と背面パネル11の長溝40と殆ど同じ高さに揃っており、その結果デザインの的にスッキリとして見栄えが良い。

30

【0040】

連結金具14は金属板製であり、図8に示すように、天板2の下面に重なる下水平部14aと天板2の側面に重なる垂直部14bとで横向き略L字に形成されており、垂直部14bの上端に、中間フレーム46の長溝51に入り込む係止爪14cが一体に折り曲げ形成されている。このため、係止爪14cが中間フレーム46における上エッジ部46aの下向きリップ46cに引っ掛かることにより、連結金具14は中間フレーム46に対して左右抜け不能に保持されている。

40

【0041】

本実施形態においてサイドパネル12を取り付けるには、まず連結金具14をサイドパネル12の長溝51に嵌め込み装着してから、連結金具14の下水平部14aを天板2と袖キャビネット4との間の空間に差し込みつつサイドパネル12を天板2の側面に重ね、次いで、連結金具14を所定位置にスライドさせてビス51で連結金具14を天板2に締結する、という手順を踏むことになる。

【0042】

この場合、連結金具14の係止爪14cは、連結金具14を正面視で傾けた姿勢とする

50

ことにより、サイドパネル 1 2 の広幅面と直交して左右方向からの抜き差しによって長溝 5 1 に嵌脱させることができる。このため連結金具 1 4 の取り付けをワンタッチ的に行える。

【0043】

また、本実施形態では、連結金具 1 4 の係止爪 1 4 c が上向きの鉤状であることにより、係止爪 1 4 c をサイドパネル 1 2 の長溝 5 1 に嵌めると連結金具 1 4 の下水平部 1 4 a は水平姿勢に保持されることになり、このため、人が一々連結金具 1 4 を手で持っていなくても、下水平部 1 4 a を天板 2 と袖キャビネット 4 との間の隙間に差し込むことができる。従って、サイドパネル 1 2 の取り付けを能率良く行える。この点、本実施形態の利点である。

10

【0044】

連結金具 1 4 の下水平部 1 4 a は天板 2 の下面にビス 5 2 で締結されている。本実施形態では天板 2 は木製であり、図 8 (A) (B) に示すように、天板 2 の下面に埋設した鬼目ナット 5 3 にビス 5 2 をねじ込んでいる。連結金具 1 4 における下水平部 1 4 a のうちビス 5 2 の締結部は下向きに膨出している。これは、断面係数を高めて強度をアップするためである。

【0045】

図 8 (D) では天板 2 が金属板製 (スチール製) である場合の連結構造を示している。すなわち、天板 2 は表面板 2 a の下面に樋状で左右長手の補強枠 2 b を適宜間隔で複数本固着した構造になっており、補強枠 2 b に設けた穴にプッシュナット 5 4 を回転不能に取り付け、このプッシュナット 5 4 にビス 5 2 をねじ込んでいる。なお、表面板 2 a の上面を太線で示しているが、これはメラミン等の化粧板である。

20

【0046】

なお、連結金具 1 4 が袖キャビネット 4 の箇所に配置されている場合、連結金具 1 4 の締結作業は、袖キャビネット 4 の上段の抽斗を取り外して行うことになる (袖キャビネット 4 の本体は上向きに開口しているので、抽斗を取り外せば締結作業を行える。)。本実施形態では連結金具 1 4 は 1 本のビス 5 2 で天板 2 に締結されているが、複数本のビス 5 2 を使用しても良い。

【0047】

図 10 (A) に示すように、中間フレーム 4 6 の左右両端部は平面視でコ字状に切り開かれており、この切り開き部 5 5 が樹脂製保護部材 5 6 を介して縦フレーム 4 3 の基部に嵌合している。従って、中間フレーム 4 6 の長溝 5 1 は、縦フレーム 4 3 の突出部 4 3 b の箇所まで延びている。保護部材 5 6 には、中間フレーム 4 6 の長溝 5 1 を塞ぐストッパー部 5 6 a を設けている。

30

【0048】

図 11 に示すように、サイドパネル 1 2 における巾木 4 5 には、コーナー支柱 1 3 を連結するための受け金具 5 7 がビス 5 8 で締結されている。受け金具 5 7 は巾木 4 5 に下方からずれ不能に嵌まっている。他方、図 7 に示すように、コーナー支柱 1 3 の平面視中央部には十字状の壁を介して縦筒部 1 4 b が一体に形成されており、縦筒部 1 4 b にねじ込んだビス 5 9 によって受け金具 5 7 をコーナー支柱 1 3 に締結している。

40

【0049】

サイドパネル 1 2 は床に自立している一方、バックフレーム 5 は床から浮いた状態に配置されているが、背面パネル 1 1 及びバックフレーム 5 はジョイント材 5 0 によってコーナー支柱 1 3 に連結されているため、背面パネル 1 1 はガタ付きのない状態に保持されている。

【0050】

更に述べると、バックフレーム 5 はそもそも脚 3 又は袖キャビネット 4 に連結されているのでガタ付きの問題はなく、そして、背面パネル 1 1 は、ジョイント材 5 0 が縦フロントパネル 2 8 とバックフレーム 5 のサイドメンバー 6 とに挿通していることにより、バックフレーム 5 に対しても強固に取り付けられており、かつ、背面パネル 1 1 はサイドパネ

50

ル 1 2 に対して強固に連結されているコーナー支柱 1 3 にジョイント材 5 0 によって上下全長にわたって連結されており、これらが相まって、背面パネル 1 1 はガタ付きなく堅牢な状態に保持されているのである。この点は本実施形態の利点である。

【0051】

既述のように、背中合わせに配置した机 1 はバックフレーム 5 を共用しているが、図 1 から容易に理解できるように、背中合わせに配置された机 1 のサイドパネル 1 2 は 1 本のコーナー支柱 1 3 を介して連結されている。

【0052】

図 7 では背中合わせに配置されたサイドパネル 1 2 のうち片方しか表示していないが、実際には、背中合わせに配置されたサイドパネル 1 2 の縦フレーム 4 3 は、それぞれ共通したコーナー支柱 1 3 にジョイント材 5 0 で連結されており、かつ、コーナー支柱 1 3 は、バックフレーム 5 と背面パネル 1 1 とに 1 本のジョイント材 5 0 で連結されている。このため、コーナー支柱 1 3 と前後のサイドパネル 1 2 とバックフレーム 5 と背面パネル 1 1 とが互いに補強しあって、全体として堅牢な構造になっている。

【0053】

(5). 他の実施形態 (図 12)

図 1 2 に示す第 2 実施形態では、背面パネル 1 1 を天板 2 の上下両方向に広がる 1 枚板状に形成している。サイドパネル 1 2 は第 1 実施形態と同じ構造であり、背面パネル 1 1 に、サイドパネル 1 2 の中間フレーム 4 6 と同じ高さの中間フレーム 6 0 を配置している。

【0054】

(6). その他

本願発明は上記の実施形態の他にも様々に具体化できる。例えば天板は木製に限らず金属製 (スチール製) でも良いことはいうまでもなく、また、背面パネル及びサイドパネルも複層構造に限らず、各種素材の単層構造とすることもできる。更に、背面パネル及びサイドパネルとも、例えば天板より上方の部分 (中間フレームよりも上方の部分) を半透明又は不透明な樹脂板からなるスクリーン状に形成するなど、各種の素材・構造を採用できる。

【0055】

バックフレームを設ける場合、左右の脚の後端間に配置することも可能である。第 1 実施形態の場合、袖キャビネットの前部下端 (或いは脚の前部下端とサイドパネルとの間に間隔保持用のスペーサを階層しても良い。)。また、第 1 実施形態では天板とサイドパネルとの間には連結金具の箇所を除いて若干の隙間が空いているが、この隙間を埋めたい場合は、連結金具の係止爪と垂直部に相当する部分を有する閉鎖部材を中間フレームに装着したら良い。

【0056】

また、背面パネルの下端には必ずしも長溝や段部を形成する必要はなく、背面パネルの下端部とサイドパネルの中間フレームとが略同じラインとなるように設定することにより、見栄えを良くすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0057】

【図 1】第 1 実施形態に係る机群の斜視図である。

【図 2】机の部分的な斜視図である。

【図 3】机群を裏側から見た概略斜視図である。

【図 4】バックフレームの分離斜視図である。

【図 5】背面パネルの上部分離斜視図である。

【図 6】図 2 の VI-VI 視断面図である。

【図 7】図 2 の VII-VII 視断面図である。

【図 8】 (A) は図 2 の VIIIA-VIIIA 視断面図、 (B) は (A) の B-B 視断面図、 (C) は連結金具 1 4 の取り付け手順を示す図、 (D) は別例を示す断面図である。

10

20

30

40

50

【図 9】 (A) は図 2 の IXA-IXA 視断面図で (B) は図 2 の IXB-IXB 視断面図である。

【図 10】 (A) はサイドパネルの端部の部分的な分離平面図、(B) は (A) の B-B 視図、(C) は (A) の C-C 視図である。

【図 11】 サイドパネルとコーナー支柱との下部連結手段の斜視図である。

【図 12】 他の実施形態を示す図である。

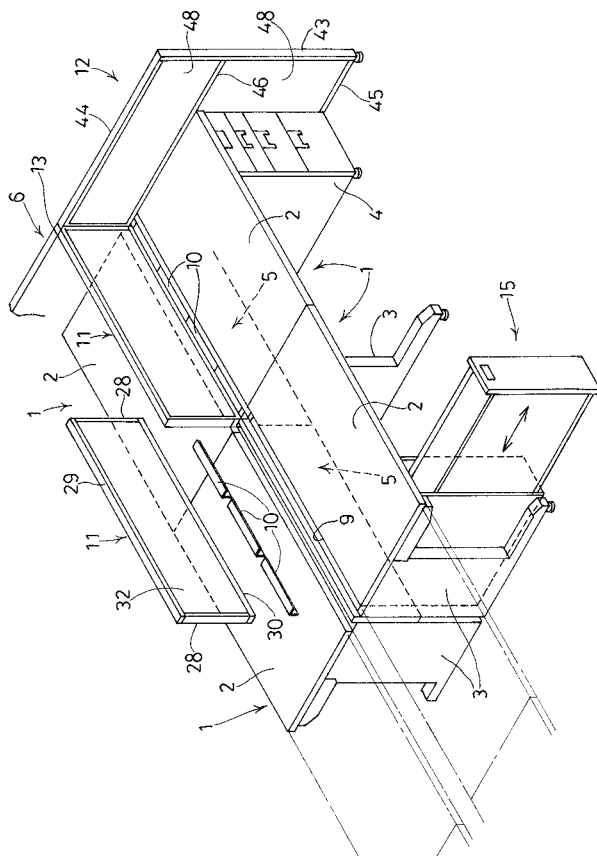
【符号の説明】

【0058】

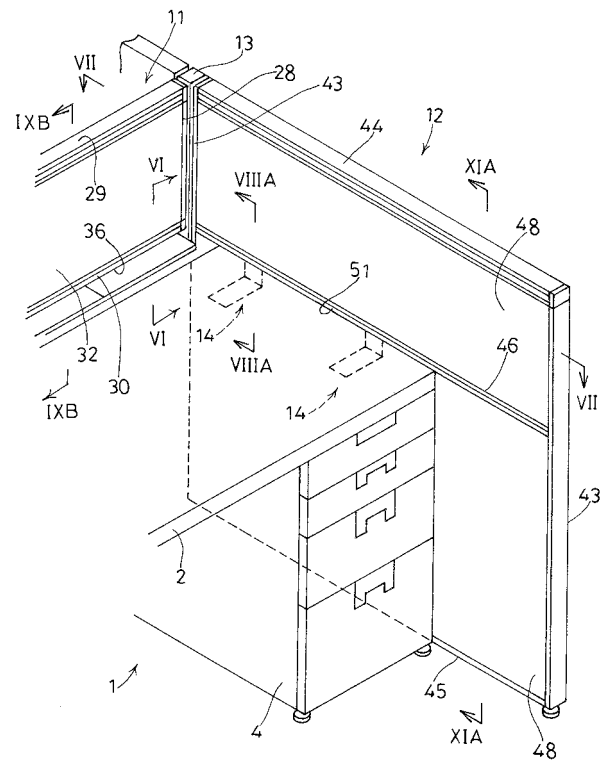
- 1 机
- 2 天板
- 3 天板の支持体の一例としての脚
- 4 天板の支持体の一例としての袖キャビネット
- 5 バックフレーム
- 11 背面パネル
- 12 サイドパネル 1
- 13 コーナー支柱
- 14 金具
- 33 背面パネルの長溝
- 56 サイドパネルの長溝

10

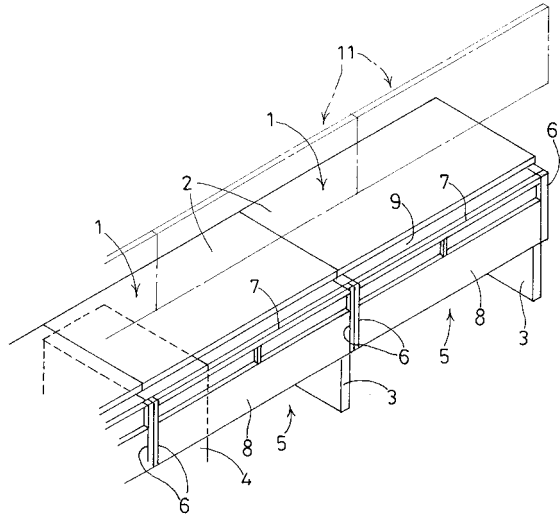
【図 1】



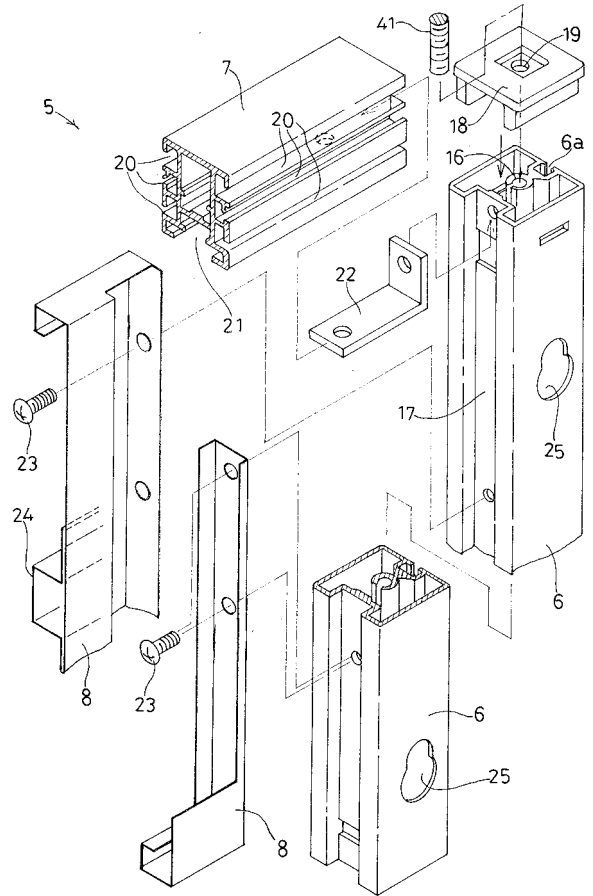
【図 2】



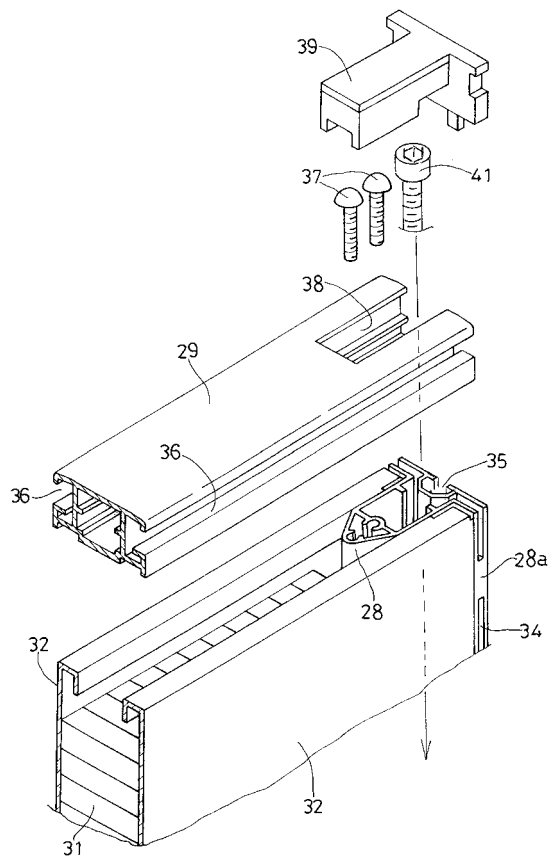
【図 3】



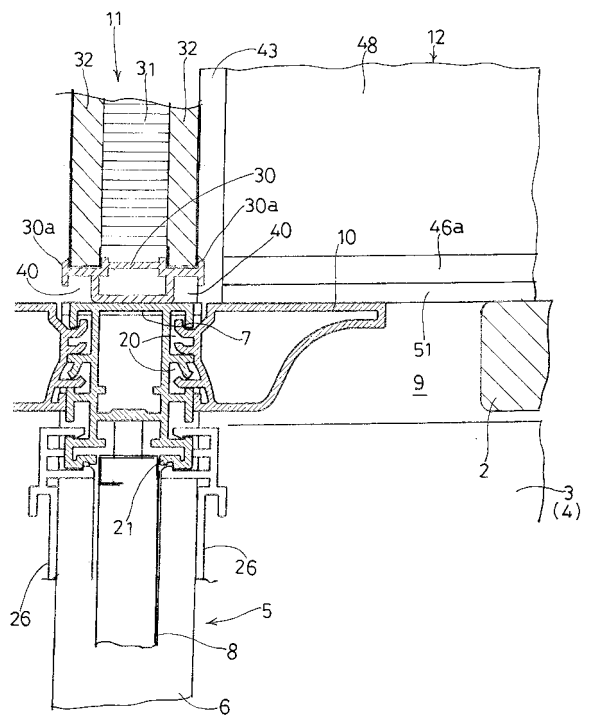
【図 4】



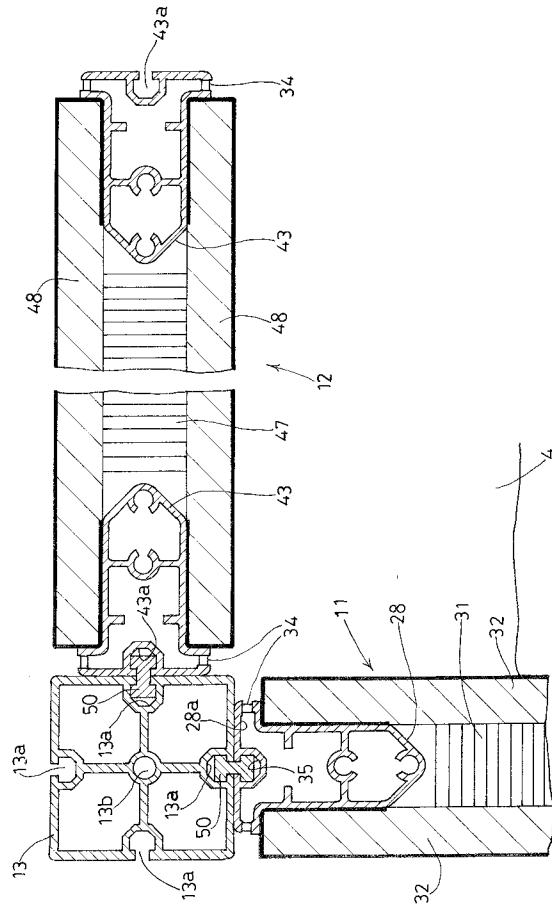
【図 5】



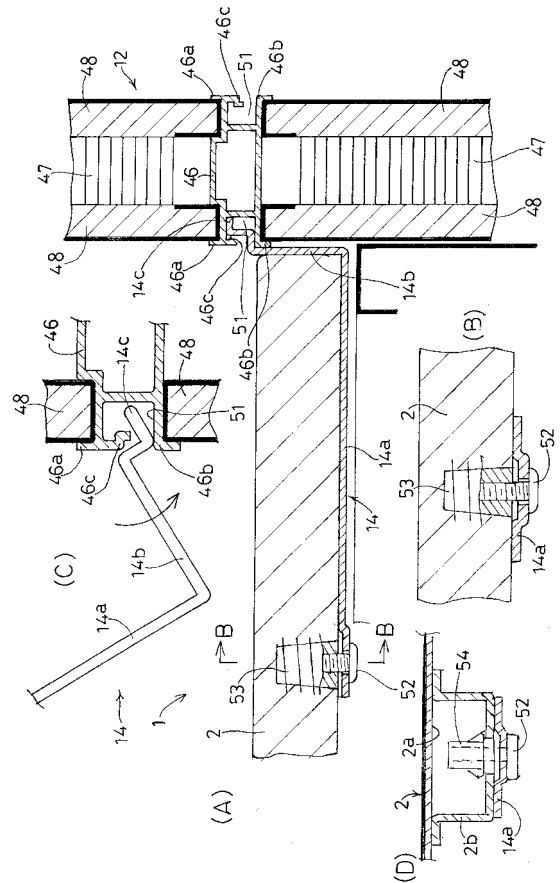
【図 6】



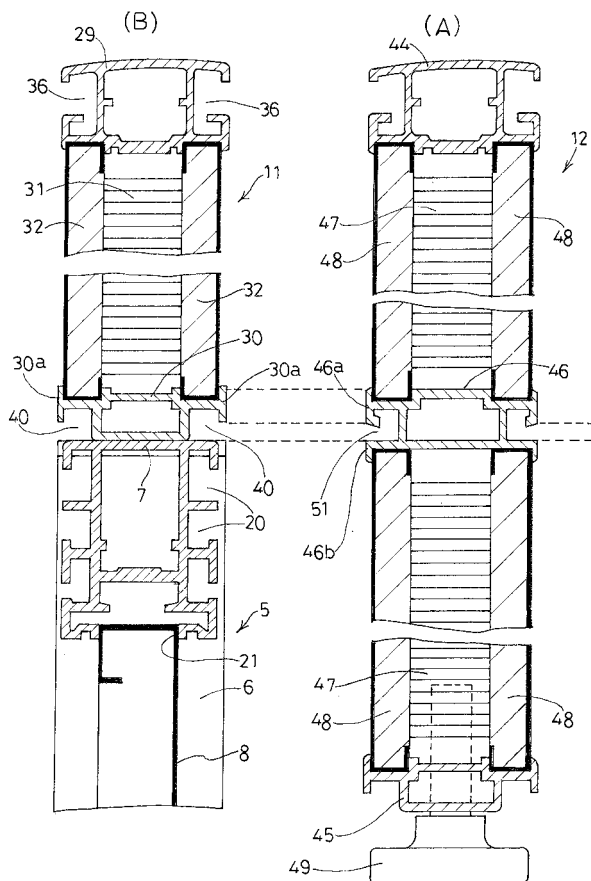
【図 7】



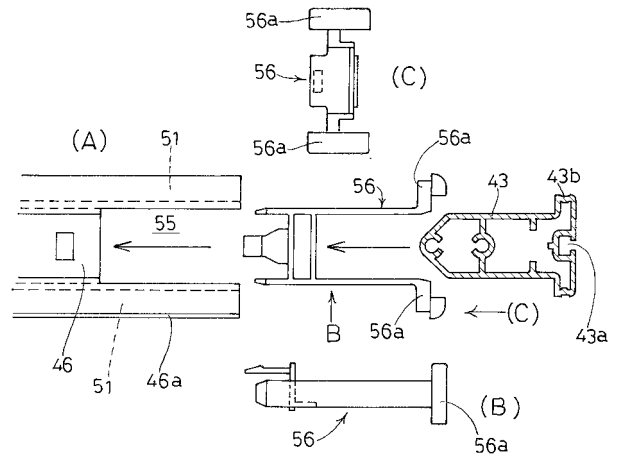
【図 8】



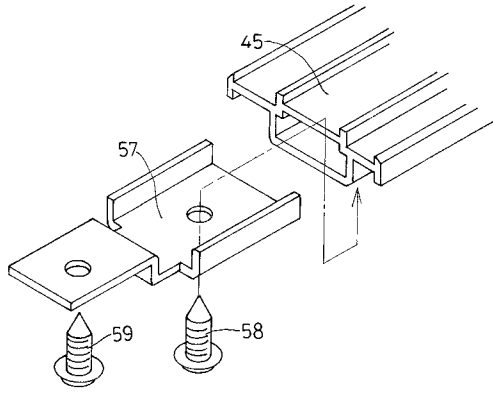
【図 9】



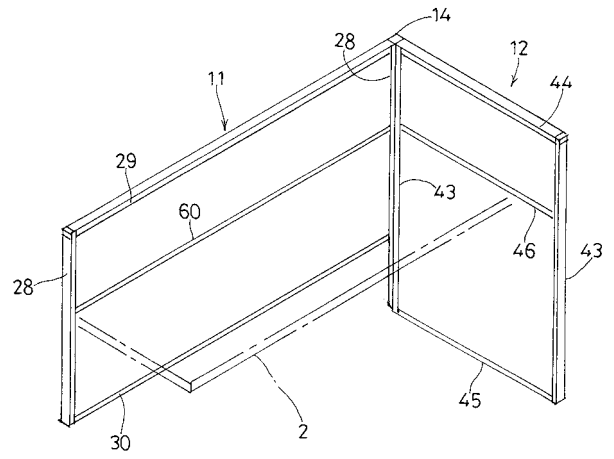
【図 10】



【図 1 1】



【図 1 2】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3B053 NP02 NP07 NQ02 NQ08 NQ10 SA01 SA05
3J024 AA14 AA41 BA05 BB06 CA03 CA11